

中学校NIE

## 「言語活動を意識しての新聞を用いた授業」

鹿追町立鹿追中学校 近藤 弘樹

### 1. はじめに

私がNIEに興味を持ったのは、私自身が新聞が大好きだからである。新聞には教科書では読み取れない社会の動きや人間の生活が詰まっており、そこに魅力を感じて毎日3紙の新聞を読んでいる。これを授業で活用しないわけにはいかない、もったいないと思ったことが原点である。

前任校（日高管内浦河町立浦河第一中学校）では社会科を担当していた。中でも公民では、難解な語句や事柄が多く出てくる。そこで、記事を活用して今動いている社会の出来事を生きた教材として取り上げる授業実践を行ってきた。

今大会で発表する実践は、前任校の校内研修（研修テーマ「基礎・基本を身に付け活用できる生徒の育成」）での公開授業についてである。市場経済と金融という経済分野の単元の全4時間のうちの第1時間目である。市場価格の決まり方や需要と供給の関係、そこから決まる均衡価格について、新米価格の記事（2011年9月26日・北海道新聞朝刊）を用いて考える授業を行った。

### 2. 授業実践の取組の概要

授業の流れとしては、①導入段階で新聞の見出しのみを提示し、興味を引かせる。②米の価格の決まり方について予想する。③課題「商品の価格はどのように決まるのか」を提示し、教科書に扱われている、供給量が一定と仮定したときのメロソンの価格の変化をグラフに書き、気づいたことをグループで読み取り、交流する。④現実には商品の価格は需要量と供給量の関係から決定することを学習する。⑤導入で提示した記事について説明し、他にも多くの要因が絡み合って価格が決まっていふことを説明する、というものである。

経済分野の学習ということがあり、子どもたちの学習内容に対する抵抗が大きいのでは、と危惧したが、お米やメロソンといった身近な

品物、そしてその価格の動きを取り上げたので、予想以上に興味を持って取り組み、グループでの話し合いも一生懸命に進める様子が見られた。一方、需要と供給という2つの、言わば“変数”によって価格が決まることの仕組みについての理解が、やや難しかったような様子が見られた。

授業後の反省点として、①米に関する記事を用いたのだから、扱う事象を米に絞って授業を行った方がよかった。②記事に震災というキーワードがあるのだから、震災で流通できない米があり、それが供給量の減少につながりかねないことに触れたら、違う展開になったのではないが、等があげられた。

### 3. 成果と課題

どの教科でも言語活動を意識した授業を展開することが必要であると思うが、とりわけ社会科では情報を読み取り、そこから知識を活用して物事を考察していくことが求められる。そのため、教科書のみならず現実社会と密接につながる媒体である新聞を用いた授業を構築し展開していくことが有用であると考える。新聞を用いて現実社会を見つめ、自分の考えや問題意識を持って生きていく生徒を育てたいと考え、言語活動を意識した新聞教育を日々実践してきた。

授業実践を通して考察できることは、①新聞を扱うことで、社会に対する興味・関心が増す、②生徒自身が持っている知識をつなぎ合わせて物事を考えることができ、活用を促すことができる、の2つがあげられる。その一方で、留意すべき点や課題として①教師自身が記事を読み込み、記事の内容を十分に理解しておくことが必要②記事を使う意図を明確に持たないと新聞の有用性が無くなる、ということがあげられる。このことを考慮しながら教材研究を行い、授業を作っていくかなければならない。